

山口県立萩美術館・浦上記念館

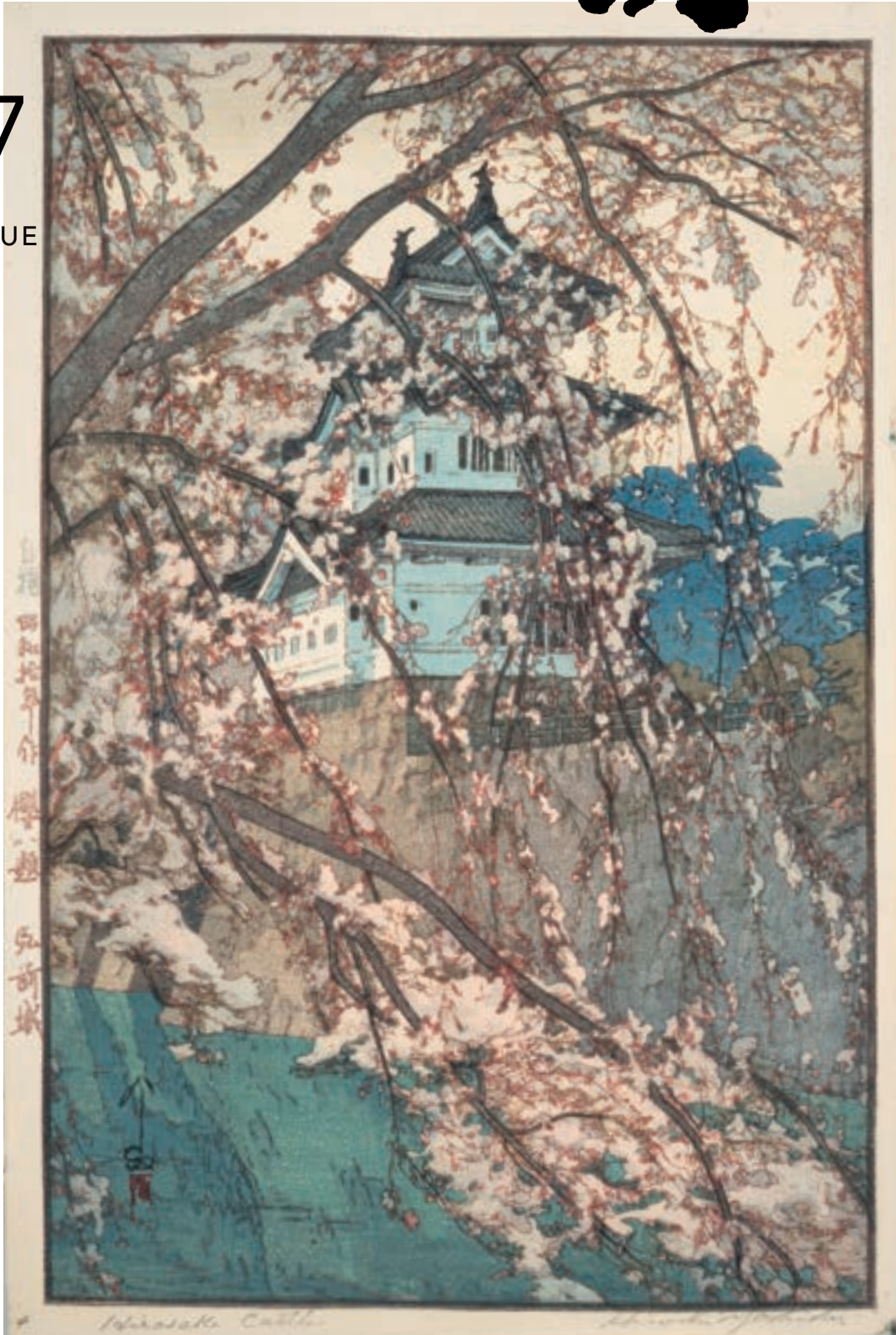
# H A G I |

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

# 萩

# 107

SPRING ISSUE  
2023



# 山口県立萩美術館・ 浦上記念館について

## ～収蔵品、展示、イベントなど～

この原稿を執筆している今日は2月12日。2月としては暖かく、萩市の最高気温15度まであがる予報となっています。あたたかさを感じてか、この季刊誌が刊行される4月のことに思いを馳せてしまいます。

4月といえば春、ちょうどその頃の風景を描き留めるような絵が本号の表紙を飾っています。この美しい絵に心が洗われて、ふと、「初心」という言葉が思い浮かびます。

開館した当初から現在に至るまで、当館は少しずつですが成長し、それとともに変化してきました。美術館の幹となる収蔵品、そして展示のことなど、あらためて紹介いたします。

## 1. 収蔵品

山口県立萩美術館・浦上記念館は、萩市出身の実業家であった浦上敏朗氏(1926-2020)が収集した浮世絵と東洋陶磁を中心とする作品の寄贈を契機として、平成8年(1996)10月に開館しました。また、平成22年(2010)9月には、本県の文化資源であり、400年余りの歴史を有する萩焼をはじめとする陶芸の振興を目的に陶芸館が開館しました。

当館は、開館当初から軸となっていた浮世絵や東洋陶磁に加え、陶芸館開館以降は陶芸、工芸(陶芸以外)の2つを加え、今日では4つのジャンルを専門に作品を収蔵しています。

浮世絵版画は江戸時代から明治時代のものだけでなく、近代から現代にかけての木版画を収蔵。東洋陶磁は、先史時代から清時代の中国陶磁、高麗時代から朝鮮時代の朝鮮陶磁、桃山時代から江戸時代を中心とした日本陶磁、15～16世紀のベトナム陶器。陶芸では近・現代の器やオブジェ。工芸では、県内で活動する作家が制作した硯(赤間硯)、金工、漆芸など、この地域に根差した美術品も収蔵しています。

## 2. 展示

当館には本館と陶芸館の2棟があり、合計8室(展示室1～8)の展示室を設けています。

展示は大きく分けて特別展示と普通展示(常設展示)の二つがあり、本館2階の展示室3・4・5・6の4室では主に特別展示が開催され、当館の専門にそった内容のものを、年に3展ほど計画します。本館1階(展示室1・2)と、陶芸館(展示室7・8)では普通展示が開催され、展示室1は浮世絵、展示室2では東洋陶磁、展示室7では現代陶芸、展示室8では近代から現代の陶芸と、陶芸以外の工芸の作品が並び、それぞれテーマを設けて作品を紹介しています。

また、当館には一般的な展示室に加え、特選鑑賞室や茶室、萩焼の紹介コーナーなど特徴的な展示もあります。本館にある特選鑑賞室では、選りすぐられた浮世絵が1点のみ展示され、月替わりで年間に12作品を紹介しています。落ち着いた空間でゆっくりと作品を味わってみてください。また、特選鑑賞室の隣にある茶室では、その独特の空間を使い、様々



## 浮世絵



葛飾北斎  
風流無くてなぐせ 遠眼鏡  
大判錦絵  
享和期頃  
浦上敏朗氏寄贈



藍三彩宝相華文三足盤 唐時代・8世紀 浦上敏朗氏寄贈

## 東洋陶磁

### 3. イベント

な分野で活躍するアーティストの自由な発想で制作されたインスタレーションを発表しています。陶芸館1階ロビーの一角には、実物や映像を使って萩焼の歴史や素材について紹介するコーナーを常設しています。こちらでは、本県文化施設のひとつである山口県埋蔵文化財センターから借用している、古い窯跡の発掘調査で出土した萩焼や窯道具を展示しており、資料の特徴を詳しく見ることができます。

さらに、館外でも展示を行っています。本県東部の岩国市にある岩国錦帯橋空港で「すぽっと展示」という小さなコーナーを設置し、陶芸作品を展示しています。こちらは2か月に一度のペースで展示替えを行い、年に6作品を紹介しています。同じ県内でも萩市と岩国市は距離的に離れていますので、岩国市だけではなく、広く県東部にお住いの方や空港を利用される方にも陶芸作品を見てほしいとの思いから、展示しています。

これまで収蔵品と展示について紹介してきましたが、展覧会にあわせて、また、正月や夏休み、月夜の美しい秋など季節にあわせて様々なイベントを行っています。

展覧会の関連イベントでは学芸員や専門家による美術講座や、作家によるアーティスト・トークなどを開催していますので、展示作品やその内容を深く知ることができます。また、実際に自分で制作を行うワークショップや、コンサートをはじめとする各種公演など、体験を通したイベントも開催しています。

イベントは、何より、その楽しい雰囲気の魅力で、この機会を通して、美術の魅力を広くわかりやすく伝えたいとの思いで企画しています。



山本晃 <接合せ金銀彩盛器「輝翔」> 2014年 (撮影:山崎信一)

三輪龍氣生(十二代三輪休雪)  
<愛> 2004~2010年 (撮影:田中学而)

## 4. 令和5年度、注目の展示は？

令和5年度も様々な展覧会やイベントを開催します。

特別展「浮世絵×カブキ 江戸の役者絵展」(7/29-8/27)では江戸の役者絵に注目して、その誕生する元禄期から終焉する明治期に至るまでの作品を紹介します。

特別展「フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン」(9/16-12/3)では、20世紀前半から現在までの世界に名だたるフィンランドの8名のデザイナー・作家たちが独自にデザインした芸術性豊かな作品を中心に約130点を超えるガラス作品を紹介します。また、フィンランド・ガラスアート展と同時に開催する「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展—食べること、共に生きること—」(9/16-12/3)では、フィンランド発祥の世界的なキャラクター「ムーミン」の食文化と共生をテーマとした原画などを紹介します。

このほか、普通展示も多く企画していますので、ぜひご来館ください。

## 5. 山口県立萩美術館・浦上記念館の初心

さいごに、当館開館前の開設準備室時代に発行された「季刊 萩」の前身である「山口県立萩美術館・浦上記念館 準備 News」(1996年Spring)の一頁目にある言葉を紹介して終えたいと思います。

山口県立萩美術館・浦上記念館は、こんな美術館です。

わかりやすく親しみやすく  
学べる美術館  
新しい文化創造へと  
いざなう美術館  
地域からの文化を  
発信する美術館  
国際交流の場となる美術館  
そしてもちろん、  
浮世絵と東洋陶磁の美術館

(現在では専門ジャンルが陶芸、工芸へと広がっています)



1



2



3

# 浮世絵×カブキ

## 江戸の役者絵展

2023.7.29 | 土 | - 8.27 | 日 | ※会期中に一部展示替えを行います。

休館日 7月31日(月)、8月14日(月)、8月21日(月) 開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)

観覧料 一般1,300(1,100)円、学生1,100(900)円、70歳以上1,000(800)円

※( )内は前売りおよび20名以上の団体料金。 ※18歳以下の方と高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。

※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳のご提示者とその介護者(1名)は無料。

※前売券は、ローソンチケット、セブンチケットでお求めになれます。 ※割引券は、県内プレイガイド、道の駅、旅館等観光施設に設置しています。

※開催中の普通展示もご覧いただけます。

主催 浮世絵×カブキ展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY山口放送)

後援 山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会

浮世絵版画のなかでも絶大の出版量を誇った役者絵に注目する展覧会です。輝くオーラ漂う役者の全身像、そばにいるかのようにクローズアップされた似顔、劇場での感動を呼び覚ます背景描写…。浮世絵師たちによって、役者や舞台演出の魅力がみごとに再現された役者絵は、浮世絵史を通じて人気ジャンルであり続けました。

本展覧会では、役者絵が誕生する元禄期から、終焉を迎える明治期に至るまで、時代の流れに沿って構成し、その表現の変遷をたどります。歌舞伎そのものや、話題の役者・ドラマに魅了される人々の心と呼応しながら、浮世絵師たちはいかなる表現を追求したのか考察していきます。

1. 歌舞伎堂艶鏡「三代目市川八百蔵の梅丸」大判錦絵、寛政8年(1796)、太田記念美術館 [8/12-27展示予定] 2. 歌川豊国「三代目沢村宗十郎の大星由良之助」大判錦絵、寛政8年(1796)、東京国立博物館 Image: TNM Image Archives 3. 歌川国貞「唐木政右エ門 二代目助高屋高助 高賀」(部分)、大判錦絵、文久3年(1863)、山口県立萩美術館・浦上記念館



展示室3～6〈浮世絵〉

浮世絵プレミアム展示

ほくさい ひろしげ  
北齋 VS 広重 いっき見! 「富嶽三十六景」と「東海道五十三次之内」

【会期】4月29日(土・祝) — 5月28日(日)

葛飾北齋(1760～1849)と歌川広重(1797～1858)は、代表的な浮世絵師であるだけでなく、日本文化を象徴する芸術家として、国内外で高く評価されています。今回の浮世絵プレミアム展示では、北齋の代表作「富嶽三十六景」(10図が追加出版されましたが、今回は当初に企画された36図を展示。)と、広重の代表作「東海道五十三次之内」(宿駅53図と江戸の日本橋と京都の三条大橋2図を加えた55図。)のシリーズ全図を展示します。

70歳を過ぎた北齋が趣向を凝らして描いた富士山の諸相と、広重が35歳頃から手がけた四季の詩情と旅情に溢れる東海道の宿駅風景。いずれのシリーズも、2人の絵師の個性や創造力が凝縮された風景版画の名作ぞろいです。



葛飾北齋  
「富嶽三十六景  
神奈川沖浪裏」  
天保2～5年  
(1831～1834)



歌川広重  
「東海道五十三次之内  
庄野 白雨」  
天保4～5年  
(1833～1834)

この機会に北齋と広重の傑作をイッキにお楽しみください。

展示室1〈浮世絵〉

よしだ ひろし ふうけいはん が  
吉田博の風景版画

【会期】4月11日(火) — 5月14日(日)

明治から昭和にかけて活躍した吉田博(1876～1950)は、小山正太郎が率いる画塾不同舎で洋画の研鑽をつみ、結成から関わった太平洋画会で活躍し、官展では審査員もつとめた風景画家です。幾度も外遊して国際的な評価も高く、また山岳画家としても知られています。大正期以降の後半生は、木版画家としても精力的に活躍しました。

新版画運動を提唱する版元、渡邊庄三郎と知遇を得たこと、そして米国での新版画の好評が追い風となり、

3度目の外遊から帰国した大正14年(1925)からは、彫師と摺師を自らが監督する私家版を「自摺」と称して制作しました。洋画家として磨いた技術や感性が創造する新しい版画表現をお楽しみください。



吉田博  
「日本アルプス十二題の内 黒部川」  
木版画、大正15年(1926)



展示室1〈浮世絵〉

こばやしきよちか こうせん が じ だい  
小林清親－光線画の時代

【会期】5月16日(火)－6月18日(日)

小林清親(1847～1915)は、幕末・明治期に西洋からもたらされた油彩画や銅版画、石版画、写真などから写実的な表現を学び、光と影を合理的に表現する“光線画”という新様式の風景版画を確立しました。

明治9～14年(1876～1881)に手がけた93図の光線画は、「東京名所図」というシリーズとみなされ、清親の代表作として知られています。そこには、近代化が進む東京風景の中に儂く漂う江戸情緒が、季節や時間のうつろいと共にノスタルジックに描きとめられています。

今回の展示では「東京名所図」を中心に、清親の光線画をご紹介します。



小林清親「今戸夏月」明治14年(1881)

展示室1〈浮世絵〉

かがみ かがみ うきよ え えが え どの  
鏡よ鏡－浮世絵に描かれた江戸のヘア・メイク

【会期】6月20日(火)－7月23日(日)

浮世絵版画には、鏡と向き合い、ヘア・メイクをする女性の仕草を艶めかしく描いた作品が多く見られます。美しさを追求する女性の姿は、いつの時代も変わることはありません。傍らの鏡は、女性の美を称え、後押しする道具として描かれました。

また、鏡に対面する風景や人物等の映像をうつし出す特徴をふまえて、目に見えない本心や本性を鏡にうつし出す表現なども認められます。

今回の展示では、鏡をモチーフに描く作品から、江戸時代の女性のヘア・メイクの様子や鏡にまつわる様々な表現をご紹介します。



歌川国貞  
「当世美人合 かこみ」  
文政末期  
(1828～1829)



展示室2〈東洋陶磁〉

とうよう び せい じ  
東洋の美 青磁

【会期】4月11日(火) - 7月23日(日)

美しい青または緑色の色調をもつ青磁は、古代中国で創始された灰釉<sup>かいゆう</sup>が長い年月を経て改良、進化を遂げて完成されたものです。その厚くなめらかに掛けられた青磁釉の色合いは、釉や胎土に含まれる微量の鉄分<sup>かんげんえん</sup>が還元炎焼成により発色したもので、多数の小気泡を含む青磁の釉層は周囲の光の状況によっても微妙にその美しさを変化させます。理想的な青の色合いを「雨過天晴<sup>うかてんせい</sup>」と呼んだ宋代の青磁は、その

最高位とされ、皇帝の用にも供されました。

今展では、青磁の起源である灰釉陶器から日本人が好んだ龍泉窯の「砧青磁<sup>りゅうせんよう きねた</sup>」、さらに朝鮮半島独自の高麗青磁<sup>こうらい</sup>などの作品を展覧し、東洋独特のやきものの美質を示す青磁の妙味を紹介しします。



青磁牡丹唐草文瓶 中国・龍泉窯  
南宋～元時代 13～14世紀  
当館蔵(浦上敏朗氏寄贈)

展示室8〈陶芸〉

ちゃとう きんげんだい まつしたひろし  
茶陶の近現代 - 松下寛コレクション -

【会期】5月9日(火) - 8月27日(日)

日本のやきものの歴史の上で、桃山時代に侘び茶を極めた千利休<sup>せんりのきゅう</sup>(1522-91)が創意した茶陶は、それ以後の土に向き合い作陶を行なう者たちにかつてない創造の場を与えました。そして桃山時代の長次郎<sup>ちようじろう</sup>(生年不詳 - 1589)が造りだした樂茶碗<sup>らくちawan</sup>が「今焼<sup>いまやき</sup>」と呼ばれたように、常に茶陶はその時生きたやきものの作り手たちの「今」の想いをかたちにしてきました。とりわけ茶碗は、他の茶陶にはない特別な感興を見る者に抱かしめ、現代まで続く作り手たちにとって常に過去の伝統的な茶碗に向き合わせ、彼らがそれぞれの「今」を生きる中で自身の個性を色濃く表現す

ることができた茶の湯の器でした。

今展では、当館に近現代の陶芸作品をご寄贈いただいた松下寛(1931-2016)氏蒐集のコレク



樂直入(十五代樂吉左衛門)《焼貫黒樂茶碗 銘 林華》  
1987年 当館蔵(松下久子氏寄贈)

ションから、茶碗を中心に展覧し、作家たちがそれぞれの「今」と向き合い、その独自の造形を表出した近現代の茶陶を紹介しします。



館鼻則孝 Distance

【会期】4月8日(土) ~ 2024年3月24日(日)



# 特選鑑賞室

特選鑑賞室では、館蔵浮世絵の優品を毎月ご紹介しています。本年度のテーマは美人画です。喜多川歌麿が活躍した寛政期を中心に、菱川師宣や鈴木春信など時代を代表する絵師の作品をご覧ください。

2023  
4月



絵師未詳  
「花筏」

享保～宝暦期(1716～1763) 横中判紅絵

桜の舞い散る中、振袖姿の侍が貴人を載せた筏船の舵を取り進んでいます。紅を主体に筆彩色を行った紅絵。初期浮世絵の素朴さと中世的な画題が調和した典雅な作品。

5月



葛飾北斎  
「風流無くてなくせ 遠眼鏡」

享和期(1801～1803)頃 大判錦絵

北斎の希少な美人大首絵。無くて七癖とは誰にも癖があるという意味の諺。外出して遠眼鏡を覗く母娘は物見遊山癖か。細面の上品な顔立ち、享和期の美人画の典型です。

6月



鳥文斎栄之  
「青楼美人六花仙 越前屋唐土」

寛政5～6年(1793～1794)頃 大判錦絵

花魁を花にたとえ六歌仙に音を通わせた挿物。本図は詠歌を思案する唐土を百合に見立てます。栄之は、片膝を立てた様式を創案し、気品漂う美人像で名声を得ました。

7月



鳥高斎栄昌  
「お高祖頭 牡丹」

寛政8年(1796)頃 大判錦絵

黒い頭巾からのぞく白い肌が艶めかしい。ごま摺という技法で薄物が透ける様子を表現しています。鳥高斎栄昌は栄之の高弟。親しみやすく甘美な女性像が特徴です。

8月



鳥居清長  
「当世遊里美人合 蚊帳の内外」

天明2年(1782)頃 大判錦絵

天明期、長身の健康的な女性像で一世を風靡した鳥居清長。岡場所を中心に、遊女や芸者の姿を活写しました。本図は客が待つ蚊帳に入ろうとする遊女に、同輩が声をかけた場面。

9月



喜多川歌麿  
「難波屋おきた」

寛政5年(1793)頃 大判錦絵

水茶屋難波屋の看板娘おきた。寛政の三美人に数えられた実在の人物。絵姿は飛ぶように売れたといひます。歌麿は、表情や仕草のわずかな違いから、女性の性格や内面まで描き出した。

10月



鈴木春信  
「五常 仁」

明和4年(1767) 中判錦絵

儒教で説く5つの徳に詠歌を添えた挿物。本図は思いやりを意味する仁。多色摺が高度に発達した錦絵の草創期に活躍した春信。夢幻世界の美人画で人気を博しました。

11月



奥村政信  
「草子洗小町」

寛保～延享期(1741～1747) 横大判紅摺絵

草子洗小町は、草子に書き込まれた歌を洗い流し自作と証明したという小町伝説。数色の版彩色を行う紅摺絵は、素朴な色彩と精緻な版表現が魅力。政信晩年の豪華な大判作品。

12月



溪斎英泉  
「美艶仙女香 はつ雪や」  
文政中期(1822～1825) 大判錦絵

白粉「美艶仙女香」の宣伝を兼ねた美人画の挿物。雪や女性の肌の白さに白粉を連想させます。溪斎英泉は幕末の退廃的な美意識を表現し、官能的な女性像を描きました。

2024  
1月



菱川師宣  
「よしはらの躰 高嶋見世先」  
延宝後期～天和期(1678～1683) 横大判墨摺絵

菱川師宣は、歌舞伎や遊郭など享乐的な当世風俗を描き、浮世絵の祖といわれます。本図は吉原を描く12枚の墨摺絵組物の1図。左は格の高い格子店。右は最下級の遊女屋。

2月



磯田湖龍齋  
「雛形若葉の初模様 がつはらや内れん山」  
安永5年(1776)頃 大判錦絵

吉原遊女を主題に安永6年頃から5、6年間、連続的に出版された120枚余りの大シリーズ。湖龍齋は、量感のある肉感的な美人様式を確立しました。

3月



鈴木春信  
「風流五色墨 長水」  
明和5年(1768) 中判錦絵

俳諧集『五色墨』の長水「紅梅に背く横たふ笈哉」の句意をふまえ、若い男女が手紙を取り合う場面。春信は当世人物に古典文学の意味を通わせる見立絵を多く制作しました。



## 令和5(2023)年度

### 山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館 メンバーズクラブ会員募集

山口県立美術館および山口県立萩美術館・浦上記念館の  
展覧会等を通じて美術に広く親しんでいただき、地域文  
化の向上に寄与することを目的として、2014年4月に「県  
立美術館メンバーズクラブ」を設立しました。現在、会員  
を募集中です。特典は入会したその日から使えます。皆さ  
まのご入会をお待ちしております。

#### 年会費

- 一般：3,300円
- 学生(19歳以上の学生)：2,800円
- シニア(70歳以上)：2,400円

※学生・教職員の方はキャンパスメンバーズもご利用いただけます(但し加盟校の方が対象です)。加盟校、内容は2館のホームページでご確認ください。

#### 有効期間

令和5年4月1日(土)～令和6年3月31日(日)

#### 募集期間

令和5年4月1日(土)～令和5年8月31日(木)

#### 主な会員特典

2館の特別展示の中から、お好きな展覧会を  
5回分無料、6回目以降は半額でご覧いただけます。  
さらに普通展示(コレクション展)は  
何回でも無料でご覧いただけます。

企画展の無料観覧特典を  
同伴者おひとりのみ利用できます。  
(同伴者のご入場分は無料特典の利用回数に含まれます。)

会員証の提示で全国の提携館の入館料が  
割引になります。

#### 【提携館・提携施設】

サントリー美術館(東京・港区)／DIC川村記念美術館(千葉・佐倉)  
／植田正治写真美術館(鳥取・伯耆)／足立美術館(島根・安来)／  
島根県立美術館(島根・松江)／島根県立古代出雲歴史博物館(島  
根・出雲)／島根県立石見美術館(島根県芸術文化センター「グラ  
ントワ」)(島根・益田)／尾道市立美術館(広島・尾道)／ひろしま美  
術館(広島・中区)、広島県立美術館(広島・中区)／広島市現代美  
術館(広島・南区)／愛媛県美術館(愛媛・松山)

※詳しい割引内容はご利用の美術館・博物館でご確認ください。

その他、会員限定イベントや展覧会情報のお届けなど  
詳しくはチラシまたはホームページで。

【お問い合わせ】9:00～17:00 ※休館日を除く  
山口県立美術館 TEL 083-925-7788  
山口県立萩美術館・浦上記念館 TEL 0838-24-2400

## 令和5(2023)年度

### 山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館 法人サポーターズ会員募集

法人サポーターズは、山口県立美術館および山口県立萩  
美術館・浦上記念館が行う文化芸術活動の充実強化を、地  
域の法人および個人事業主のみなさまにサポートしてい  
ただくことを目的とした会員制度です。なお、会員特典は  
従業員の皆さまの福利厚生や、お世話になっている方へ  
のプレゼントとしてもご活用いただけます。

#### 年会費

- プラチナ会員：1口 10万円(税込)
- ゴールド会員：1口 5万円(税込)

#### 有効期間

令和5年4月1日(土)～令和6年3月31日(日)

#### 申込受付期間

令和5年5月31日(水)まで

#### 会員特典

- 1 会員証の提示で、特別展示と普通展示(コレクション展)が  
2名様まで無料で何度でも観覧できます。
- 2 特別展示共通の招待券を贈呈します。  
※プラチナ会員は100枚、ゴールド会員は40枚
- 3 特別展示の開会式にご招待します。  
※プラチナ会員のみ
- 4 美術館情報を定期的にご案内します。
- 5 会員の社名・団体名を  
館内や両館のホームページで紹介します。

#### 【会員区分と特典一覧】

	プラチナ会員	ゴールド会員
年会費	10万円／1口	5万円／1口
会員証	2枚	1枚
	会員証提示で特別展示・普通展示とも 2名まで無料 ※回数制限なし	
特別展共通券	県美・萩美 各50枚	県美・萩美 各20枚
開会式ご招待	○	×
ご案内送付	○	○
社名紹介(館内)	○	×
社名紹介(HP)	○	○

【お問い合わせ】9:00～17:00 ※休館日を除く  
県立美術館法人サポーターズ事務局 TEL 083-925-7788  
(山口県立美術館指定管理者サントリー・パブリシティサービスグループ)



## 山口県立美術館

### 佐藤健寿展 奇界／世界

2023年 4/14(金)～6/11(日)

〈休館日〉月曜日(ただし5/1、6/5は開館)

世界120カ国以上を巡り、ありとあらゆる“奇妙なもの”をカメラに収めてきた写真家・佐藤健寿。本展は200点を超える作品を一堂に展示し、佐藤健寿の世界をご紹介します。



〈マトリョーシカ・ホテル／中国〉  
2018年 © KENJI SATO

### ジブリパークとジブリ展

2023年 7/15(土)～9/24(日)

〈休館日〉7/24-31、8/21-28、9/11 ※いずれも月曜日

2022年11月、スタジオジブリ作品の世界を表現した公園施設「ジブリパーク」が第1期開園。

制作現場を指揮するのは『アーヤと魔女』などのアニメーション作品も生み出してきた宮崎吾郎監督です。

貴重な制作資料からジブリパーク誕生の舞台裏を紹介する展覧会がやってきます。



© Studio Ghibli © Kanyada

### コレクション特別企画

#### 生誕110年 松田正平展

2023年 10/13(金)～12/3(日)

〈休館日〉月曜日(ただし11/6は開館)

独特の透明感あふれる作風で、白洲正子や山田洋次などの著名人にもファンが多い洋画家、松田正平(1913-2004)。生誕110年を記念して、その画業を幅広くご紹介します。



〈バラ〉1980-90年代  
油彩／カンヴァス 山口県立美術館蔵

### 毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」

#### 一はじめて出会う『源氏物語』

2023年 10/13(金)～12/3(日)

〈休館日〉月曜日(ただし11/6は開館)

紫式部によって紡がれた王朝恋愛長編『源氏物語』。物語を絵画化した数々の「源氏絵」とともに、千年以上に渡って愛されてきた、優美な日本文学の金字塔です。本展では毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」を通じて、一度は触れてみたい『源氏物語』の世界を、親しみやすくご紹介します。



〈源氏物語絵巻〉若菜下 毛利博物館蔵

【開館時間】 9:00～17:00(入場は16:00まで)

【休館日】 月曜日(祝日・休日、特別展開催中のファーストマンデー(第一月曜日)は開館)、年末年始、展示替え期間

【観覧料】 コレクション展示 一般300円／学生200円  
※70歳以上18歳以下は無料。  
※特別展は展覧会によって観覧料が異なります。

【住所】 〒753-0089 山口県山口市龜山町3-1  
TEL 083-925-7788 FAX 083-925-7790

## 山口県立萩美術館・浦上記念館

### 浮世絵×カブキ 2023年 7/29(土)～8/27(日)

※会期中に一部展示替えを行います。

江戸の役者絵展 〈休館日〉月曜日(ただし8/7は開館)

歌舞伎役者や舞台演出の魅力がみごとに再現された役者絵は、浮世絵史を通じて人気ジャンルであり続けました。本展では、役者絵が誕生する元禄期から、終焉を迎える明治期に至るまで、時代の流れに沿って構成し、その表現の変遷をたどります。



歌川豊国  
「三代目沢村宗十郎の大星由良之助」  
大判錦絵 寛政8年(1796)  
東京国立博物館  
Image: TNM Image Archives



歌舞伎堂錦鏡  
「三代目市川八百蔵の梅王丸」  
大判錦絵 寛政8年(1796)  
太田記念美術館  
[8/12-27展示予定]

### フィンランド・グラスアート

#### 輝きと彩りのモダンデザイン

### ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展

- 食べること、共に生きること -

2023年 9/16(土)～12/3(日)

〈休館日〉月曜日(ただし9/18、10/2、10/9、11/6は開館)、9/19(火)、10/10(火)

フィンランド国内の珠玉のコレクションから、本展では20世紀前半から現在までの世界に名だたるフィンランドの8名のデザイナー・作家たちが独自にデザインした芸術性豊かな作品を中心に約130点を超えるガラス作品を紹介し、フィンランド発祥の世界的なキャラクター「ムーミン」の食文化と共生をテーマとした原画などを紹介する展覧会も同時開催します。



ティモ・サルパネヴァ(カヤック[3867]) 1954年  
イッタラ・ガラス製作所 コレクション・カコネン



〈ムーミンババ海へい〉 1965年  
©Moomin Characters™

【開館時間】 9:00～17:00(入場は16:30まで)

【休館日】 月曜日(祝日・休日、第一月曜日は開館)、祝日・休日  
開館した月曜日の翌平日、年末年始、展示替え期間

【観覧料】 普通展示 一般300円(240円)／学生200円(160円)  
※( )内は20名以上の団体料金です。  
※70歳以上18歳以下は無料。  
※特別展は展覧会によって観覧料が異なります。

【住所】 〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1  
TEL 0838-24-2400 FAX 0838-24-2401



# SCHEDULE 令和5年度(4月~6月)

■ 休館日 ★ イベント ● ギャラリー・ツアー ◆ ギャラリー・トーク ▲ アーティスト・トーク

## 4

APR

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
展示室1	普通展示(浮世絵):月岡芳年 新形三十六怪撰 (~4/9)										普通展示(浮世絵):吉田博の風景版画 (4/11~5/14)																			
展示室2	普通展示(東洋陶磁):華麗なる色絵磁器 (~4/9)										普通展示(東洋陶磁):東洋の美 青磁 (4/11~7/23)																			
展示室3~6	第46回山口伝統工芸展 (4/8~4/16) ※1																													
展示室7	普通展示(陶芸):三輪龍氣生 陶の世界 (~8/27)																													
展示室8	普通展示(陶芸):茶陶一萩 (~5/7)																													
特選鑑賞室	絵師末詳「花筏」(4/1~4/30)																													
茶室	館鼻則孝 Distance (4/8~2024.3/24)																													

※1 浮世絵プレミアム展示:北斎VS広重 いっき見!「富嶽三十六景」と「東海道五十三次之内」(4/29~5/28)

## 5

MAY

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
展示室1	普通展示(浮世絵):吉田博の風景版画 (~5/14)										普通展示(浮世絵):小林清親—光線画の時代 (5/16~6/18)																				
展示室2	普通展示(東洋陶磁):東洋の美 青磁 (~7/23)																														
展示室3~6	浮世絵プレミアム展示:北斎VS広重 いっき見!「富嶽三十六景」と「東海道五十三次之内」(~5/28)																														
展示室7	普通展示(陶芸):三輪龍氣生 陶の世界 (~8/27)																														
展示室8	普通展示(陶芸):茶陶一萩 (~5/7)														普通展示(陶芸):茶陶の近現代—松下寛コレクション— (5/9~8/27)																
特選鑑賞室	葛飾北斎「風流無くてなぐせ 遠眼鏡」(5/1~5/31)																														
茶室	館鼻則孝 Distance (~2024.3/24)																														

## 6

JUN

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
展示室1	普通展示(浮世絵):小林清親—光線画の時代 (~6/18)										普通展示(浮世絵):鏡よ鏡—浮世絵に描かれた江戸のヘアメイク (6/20~7/23)																			
展示室2	普通展示(東洋陶磁):東洋の美 青磁 (~7/23)																													
展示室3~6																														
展示室7	普通展示(陶芸):三輪龍氣生 陶の世界 (~8/27)																													
展示室8	普通展示(陶芸):茶陶の近現代—松下寛コレクション— (~8/27)																													
特選鑑賞室	鳥文斎栄之「青楼美人六花仙 越前屋唐土」(6/1~6/30)																													
茶室	館鼻則孝 Distance (~2024.3/24)																													

### ★ イベント

#### 美術館クイズラリー

【日時】5月3日[水・祝]~5月7日[日]  
 【内容】館内をめぐるながら美術館にちなんだクイズに挑戦。参加者に美術館オリジナルグッズをプレゼント。  
 ※なくなり次第終了

### ● ギャラリー・ツアー

#### (担当学芸員による展示作品解説)

北斎VS広重  
 いっき見!「富嶽三十六景」と「東海道五十三次之内」  
 いずれも11:00~12:00  
 ● 4月30日[日]  
 ● 5月7日[日]

臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。

詳しくは当館ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】TEL 0838-24-2400



公式HP

### ◆ ギャラリー・トーク

#### (担当学芸員による展示作品解説)

いずれも11:00~(30分程度)

- ◆ 4月8日[土] 茶陶一萩
- ◆ 4月22日[土] 吉田博の風景版画
- ◆ 5月13日[土] 東洋の美 青磁
- ◆ 5月27日[土] 小林清親—光線画の時代
- ◆ 6月10日[土] 茶陶の近現代—松下寛コレクション—
- ◆ 6月24日[土] 鏡よ鏡—浮世絵に描かれた江戸のヘアメイク

※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。  
 ※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。

### 交通アクセス

#### 【新山口駅から】

- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩-明倫センター下車、徒歩約5分
- 防長バス(約90分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分

#### 【山口宇部空港から】[萩・石見空港から]

- 萩近鉄タクシー(乗合タクシー) 約70~80分(利用前日までに要予約)
- 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
- 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い

#### 【JR山陰本線】

- JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
- JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
- JR玉江駅から徒歩約20分

#### 【自動車】



最新情報は公式SNSで